

岡山県ダンススポーツ連盟について

2014年11月30日

岡山県ダンススポーツ連盟 会長 尾原道與理

岡山県ダンススポーツ連盟は2005年に開催される岡山国体に備えて、2002年5月に設立されました。

設立の趣旨はご承知のように「岡山県のダンススポーツの統一組織としてダンススポーツの振興を図り、もって県民の健全な発達並びに文化の向上に寄与することを目的とし」、オリンピック及び国体につながるスポーツ並びに生涯スポーツとしてその普及振興を図るものです。

当時の取り巻く環境からダンススポーツの地位の向上・知名度アップが優先課題でした。従ってこの間、組織の整備と共に、TV・ラジオ出演、ねんりんピック、国民文化祭参加等対外活動も積極的におこなってきました。

2003年AリーグとJADA融合、学連参加。2004年JDSFに正加盟、2005年県体協加盟、2012年公益社団法人岡山県文化連盟に加盟。スポーツ・ドクター、コーチ、指導員講師、指導員、技術認定員、競技長、採点管理長、放送等、組織と各種スタッフも整ってきました。

現在の課題はこれらが如何にチームワークよく運営されるかです。京都府DSFの現在の問題点として谷口会長が本紙に書かれていることと状況は同じであり、競技選手、一般ダンス愛好家、指導員、さらにはプロ、それぞれの思い、理念、利害に微妙な違いがあります。

先日(11月27日)「日本バスケット協会“解体”へ強制介入」の記事を目にしました。「日本バスケットボール協会が、2つある国内男子リーグを統合できないなど国内統括団体の機能を果たしていないとして、国際連盟(FIBA)は26日、日本の加盟資格を停止し、あらゆる国際活動に参加する権利を剥奪し」指導に乗り出したと云うのです。

今、ダンス界は大きく揺れています。小さな団体の内部も世界のダンス界も問題の本質は同じようです。公益の目的とお互いの共通点を求めてまとまって行かなければ支持も得られませんし、衰退は避けられないでしょう。これを大きくまとまる契機とするかどうか、理性と良識が求められています。

以上

※過去の府県連会長及びDSC長からの手紙は、Aリーグ部HPに掲載しています。